

百周年に

よせる

関岡 猪蔵



さまざまなこと

思い出す桜かな

校門を入るとすぐ木造の校舎があり、その校舎を通り抜けたところに大きな桜の木があつて満開の花が新入生を迎えてくれていました。西校舎の凹地に晴明丘の地域を象徴するように数寄屋風の立派な茶室があり、時が来ると前庭の池にあやめの花が美しく咲いて、古好の風情を楽しませてくれました。

これは去る二十数年前、私が校長をしていたころの情景です。児童数千八百余名、教職員数は合わせて六十数名という大規模校でした。それでもP、T、Aが一九と

なつて明るく和やかな校風をつくり、子ども一人一人の幸せを求めて真剣な教育への取り組みがなされていきました。

二十一世紀をめざしての国の教育は、「生きる力」を育てることを目標にしています。創立百周年を迎え、晴明丘教育が「生きる力」を育み、遅しく新世紀へ飛躍していける子供たちを育成する学校としてますます発展されることを念願いたします。

第一四代 校長

(昭和49年〜昭和52年)